

第22回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 平成9年6月25日（水）
14：00～16：00
2. 場 所 委員会会議室
3. 議 題
 - (1) 前回議事要旨の確認
 - (2) EXPRESSカプセル飛行後調査報告について
 - (3) H-IIロケット5、6号機等の打上げ計画及び打上げに係る安全対策について
 - (4) 再使用型宇宙輸送システム検討会報告書について
 - (5) 「固体推進薬衝突実験の爆発音被害に係る検討チーム」の中間報告について
 - (6) LE-7Aエンジン燃焼試験（種子島）での主噴射器エレメントの損傷について
4. 資 料
 - 委22-1 第21回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
 - 委22-2 EXPRESSカプセル飛行後調査報告書
 - 委22-3-1 通信放送技術衛星/H-IIロケット5号機打上げ及び追跡管制報告書（案）
 - 委22-3-2 H-IIロケット5号機による通信放送技術衛星（COMETS）の打上げに係る安全対策について（案）
 - 委22-3-3 熱帯降雨観測衛星/技術試験衛星Ⅶ型/H-IIロケット6号機打上げ及び追跡管制報告書（案）
 - 委22-3-4 H-IIロケット6号機による熱帯降雨観測衛星（TRMM）及び技術試験衛星Ⅶ型（ETS-Ⅶ）の打上げに係る安全対策について（案）
 - 委22-3-5 宇宙実験用小型ロケット6号機打上げ計画書（案）
 - 委22-3-6 宇宙実験用小型ロケット（TR-1A）6号機の打上げに係る安全対策について（案）
 - 委22-4-1 再使用型宇宙輸送システム検討会報告書の概要
 - 委22-4-2 再使用型宇宙輸送システム検討会報告書
 - 委22-5 「固体推進薬衝突実験の爆発音被害に係る検討チーム」中間報告書
 - 委22-6 LE-7Aエンジン燃焼試験（種子島）での主噴射器エレメントの損傷について

委22-1

第21回宇宙開発委員会（定例会議）

議事要旨（案）

1. 日時 平成9年6月18日（水）
 15:00～15:35
2. 場所 委員会会議室
3. 議題 (1) 前回議事要旨の確認について
 (2) ロケット打上げ期間の拡大について
 (3) 第19回宇宙ステーション利用計画ワークショップの開催に
 について
 (4) 技術試験衛星V型（ETS-V）の運用の終了予定について
4. 資料 委21-1 第20回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
 委21-2 ロケット打上げ期間の拡大について
 委21-3 第19回宇宙ステーション利用計画ワークショップの
 開催について
 委21-4 技術試験衛星V型（ETS-V）の運用終了予定につ
 いて
5. 出席者
 宇宙開発委員会委員長代理 山 口 開 生
 宇宙開発委員会委員 末 松 安 晴
 “ 長 柄 喜一郎
 “ 秋 葉 鏖二郎

関係省庁

通商産業省機械情報産業局次長

河 野 博 文（代理）

郵政大臣官房技術総括審議官

甕 昭 男（ 〃 ）

事務局

科学技術庁長官官房審議官

大 熊 健 司

科学技術庁研究開発局宇宙政策課長

千 葉 貢 他

6. 議事

(1) 前回議事要旨の確認について

第20回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）（資料委21-1）が確認された。

(2) ロケット打上げ期間の拡大について

科学技術庁研究開発局航空宇宙開発課 森口課長より、資料委21-2に基づき、文部省宇宙科学研究所及び宇宙開発事業団の行うロケット打上げ期間について、現在の90日間から130日間（事前協議により最長190日間まで可）に拡大すること、ロケットの打上げは両機関合わせて年間17機までとすることについて、種子島周辺漁業対策協議会及び関係5県の協議組織との間で合意に至った旨、報告があった。

(3) 第19回宇宙ステーション利用計画ワークショップの開催について

科学技術庁研究開発局宇宙利用課 藤田課長より、資料委21-3に基づき、第19回宇宙ステーション利用計画ワークショップの開催主旨、開催日時、予定されている主なプログラムの内容等について説明があった。

これに関し、委員より、外国からの参加者に対する依頼状況、昨年開催された第18回ワークショップにおける参加者、来年度以降の本ワークショップ開催の体制等について質問があった。

(4) 技術試験衛星V型（ETS-V）の運用の終了予定について

宇宙開発事業団 軌道上技術開発システム本部 三戸衛星ミッション推進部長より、資料委21-4に基づき、本年夏期のCOMETS打上げ終了後、技術試験衛星V型（ETS-V）を静止軌道から推薬の許す範囲で離脱させ、停波させること、また、平成9年6月に実施した最終機能確認試験において地球センサを冗長系に切り替えた際、手順書運用上の問題により姿勢を喪失したが、地球センサを主系に戻し姿勢再補足を実施し、正常状態に回復したことについて説明があった。

これに関し、委員より、太陽電池及びバッテリーの性能低下量、設計寿命が1.5年の同衛星が10年間運用できている理由、静止軌道から離脱させる高度、今回の最終機能試験の手順書もれと同様なことが過去発生したか等について質問があった後、1.5年の設計寿命と10年運用した実績との関係についての技術解析、今後の衛星開発計画への反映事項及び設計寿命の考え方をめとめておく様に指示があった。

以上